

平成 24 年度事業報告

(1) 人材育成事業

①情報通信人材研修事業 5 コース開催

- Excel によるデータ活用（集計編）
開催日 平成 24 年 9 月 7 日（金） 参加者 17 名
- Excel によるデータ活用（分析編）
開催日 平成 24 年 9 月 12 日（水） 参加者 11 名
- アプリケーションテスト 実践トレーニング
開催日 平成 24 年 10 月 11 日（木）～12 日（金） 参加者 12 名
- プロジェクトマネジメント技法の実践
開催日 平成 24 年 10 月 18 日（木）～19 日（金） 参加者 11 名

②埼玉大学との連携強化 埼玉大学提携講座「情報と職業」

埼玉大学工学部情報システム工学科での提携講座「情報と職業」は今年で 6 年目を迎えました。今年は協会から 6 名の講師を派遣し、情報業界に限らず、広く職業とは何かについて講義しました。

講義は金曜日の 9・10 時限（16:20～17:50）に行われ、講義終了後は担当の池口教授と学生との懇親会が開かれました。

日程	担当講師	テーマ
5 月 11 日	今井 明理事・深澤 陽平氏（蓼科情報）	ある中小ソフトハウスの事例
5 月 25 日	松島 勲理事（デマンド・アド・コミュニケーションズ）	人間学講座
6 月 10 日	藤田 勉氏（ソルパック）	IT ベンチャー企業家論
6 月 29 日	岡本 比呂志理事（中央情報専門学校）	職業とキャリアを考える
7 月 6 日	小川 修一会長（AGS）	IT サービスプロバイダ企業の経営について

③ eラーニングの活用

- 日本ソフトウェア協会と共催 参加企業：5 社

(2) 地域情報化推進事業

①「彩の国ビジネスアリーナ 2013」

今年で 10 回目の記念すべき「彩の国ビジネスアリーナ 2013」が、1 月 30 日（水）、31 日（木）さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）において埼玉県・公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会・財団法人埼玉県産業振興公社・地元 6 金融機関の主催にて開催されました。

本イベントは、中小企業の受注確保・技術力向上等を目的とし、広域的な企業ネットワーク形成による取引・技術交流の促進、新たなビジネスチャンス創出の場を提供する展示商談会です。

本年は、昨年を上回る 83 小間の展示ブースを設け、「次世代産業」、「加工技術・部品」、「製品」、「IT ソリューション」、「エネルギー・環境」、「グローバルビジネス」と、多様なゾーンを展開し、556 企業・団体が出展した。

また、「次世代産業ゾーン」では、招待出展企業として、「宇宙航空」、「次世代自動車」、「医療福祉」、「エネルギー・環境分野」の先端企業、様に最新の技術・製品をご展示され、出展者や来場者との交流を図られた。

当協会は地域連携事業の一環として、従来の「IT・情報通信」を改名し「IT ソリューションゾーン」を設営し、37社45小間が出展、特設のプレゼンコーナーでは6社がプレゼンを行うとともに「IT 何でも相談コーナー」を設置しIT 利活用の推進・企業IT 動向調査を実施した。

来場者は2日間で16,478名（初日：8,823名、2日目7,664名）という過去最高を記録するなど、企業間取引における国内最大級の展示商談会となった。

会場内講演会場では当協会主催で「中小企業のビジネス革新」と題して、ソフトバンク・モバイル社の首席エヴァンジェリストの中山五輪男氏による講演を開催150人余の参加を得た。

また、同時開催イベントとしてウーマノミクスフェア、産学連携フェアをはじめ、下請取引改善講習会、埼玉県ビジネス懇談会、ながのモノづくり技術展、九都県市合同商談会、産学連携促進会といった多数のイベントが催され、会場は大いに盛り上がった。

＜彩の国ビジネスアリーナ2013開催事業実績＞

- 開催日時：平成25年1月30日（水） 10:00～18:00
31日（木） 10:00～17:00
- 開催場所：さいたまスーパーアリーナ（埼玉県さいたま市中央区新都心8番地）
- 主催：
埼玉県、財団法人埼玉県産業振興公社、公益社団法人埼玉県情報サービス産協、株式会社埼玉りそな銀行、株式会社武蔵野銀行、
埼玉縣信用金庫、飯能信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫
- 共催：
公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団、財団法人全国中小企業取引振興会
埼玉県信用保証協会、（公益財団）茨城県中小企業振興公社、
（公益財団）栃木県産業振興センター、（公益財団）群馬県産業支援機構、
（公益財団）千葉県産業振興センター、（公益財団）長野県中小企業振興センター、
（公益財団）東京都中小企業振興公社、財団法人にいがた産業創造機構
- 後援：
経済産業省関東経済産業局、さいたま市、独立行政法人中小企業基盤整備機構
関東本部、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構埼玉職業訓練支援センター、日本貿易振興機構（ジェトロ）関東貿易情報センター、株式会社日本政策金融公庫さいたま支店、一般社団法人情報サービス産協、社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉経済同友会、社団法人埼玉県経営者協会、朝日新聞さいたま総局、埼玉新聞社、産経新聞社さいたま総局、テレビ埼玉、日刊工業新聞社さいたま総局、日本経済新聞社さいたま支局、フジサンケイビジネスアイ関東総局、NHKさいたま放送局、毎日新聞さいたま支局、読売新聞さいたま支局

- 来場者数 : 16,487人 (前回 15,491人)
 初日 8,823人 (前回 7,379人)
 2日目 7,664人 (前回 8,112人)
- 実施概要 :
 - (1) 出展者による技術・製品・サービスの展示
 出展者が自社製品・加工品を展示し、自らの技術力を積極的にアピールするとともに、来場者との商談や出展者間における情報交換・商談等を実施
 ア 出展者数 556企業・団体 (前回 538企業・団体)
 イ 出展小間数 783小間 (前回 717小間)
 - (2) 講演会等の実施

最新の技術動向や企業経営に資するテーマの講演会等を実施

実施日時		演題	講師	参加者数
30日	13:00~ 14:30	目標達成へのプロセス ～チームワークとコミュニケーション～	プロサッカー監督 佐々木 則夫 氏	259人
	15:00~ 16:30	中小企業のビジネス革新 事例で学ぶ iPhone・iPad の効果的活用法	ソフトバンクモバイル(株) 首席エヴァンジェリスト 中山 五輪男 氏	150人
31日	11:00~ 2:30	NITTOKU マーケット戦略	日特エンジニアリング(株) 代表取締役社長 近藤 進茂 氏	78人
	13:00~ 15:00	JAXA タウンミーティング 日本の宇宙開発と宇宙産業	宇宙航空研究開発機構 有人宇宙環境利用ミッション本部 参与 横山 哲朗 氏 産業連携センター次長 渡戸 満 氏	110人

- 同時開催イベント
 - (1) 30・31日 ウーマノミクスフェア
～子育て・仕事をがんばる女性を応援します～
 - (2) 30・31日 産学連携フェア
 - (3) 30・31日 ながのモノづくり技術展2013 in さいたま
 - (4) 30日 埼玉県ビジネス懇談会
 - (5) 30日 産学連携促進交流会
 - (6) 31日 九都県市合同商談会 in さいたまスーパーアリーナ
 - (7) 31日 下請取引改善講習会

② 第17回「彩の国さいたまホームページコンテスト2012」

当協会のイベントとして知名度も向上し、今年度も県内外より広く応募者があり平成24年1月17日多くの来賓を迎えて表彰式が行われ、県知事賞を始めさいたま市長賞・総務省関東総合通信局長賞・経済産業省関東経済局長賞等が授与された。

- 公募期間 : 平成24年5月1日～10月10日
- 表彰式 : 平成25年1月17日
- 最終審査 : 11月17日 応募総数: 76作品・参加者113名

＜ホームページコンテスト2012受賞者＞

賞	作品タイトル	氏名	人数	学校名・企業名 (グループ名)
埼玉県知事賞	受験生、作曲家になる。	山根 春香	1	幸手市立幸手中学校
さいたま市長賞	小江戸散策	近藤 啓史他	4	会社員
総務省 関東総合通信局長賞	集中豪雨対策ネット	濱田 真澄他	3	一般社団法人アーシタン
経済産業省 関東経済産業局長賞	ひばりの挑戦 ～富士吉田のためにできること～	小佐野伊吹他	3	山梨県立ひばりが丘高等学校
小・中学生の部・最優秀賞	雷	寄川 直輝	1	松伏第二中学校
小・中学生の部・優秀賞	コンピュータについて	太田 弘樹	1	松伏第二中学校
高校・大学・専門学校の部 最優秀賞	ひばりの挑戦 ～富士吉田のためにできること～	小佐野伊吹他	3	山梨県立ひばりが丘高等学校
高校・大学・専門学校の部 優秀賞	地球を守ろう エコライフ!	松田 弘樹	1	県立浦和工業高等学校
一般の部・最優秀賞	庭園都市、京都をゆく	山谷 幸司	1	自営業/ kyotocycle
シニアの部・最優秀賞	週末ウォーキング	西田 忠夫	1	(株)スカイソフト/情報サービス
協会会員の部・最優秀賞	はじめよう禁煙 ～実は自己分析が大切!?～	深町 翔太	1	(株)フジミック埼玉
協会会員の部・優秀賞	Art of nature	牧田 大輝	1	AGS(株)
富士通賞	受験生、作曲家になる。	山根 春香	1	幸手市立幸手中学校
麒麟ビール賞	ネオジム磁石	山内 里久他	4	中央情報専門学校 CCMC ネオジム同好会
FM NACK5賞	はじめよう禁煙 ～実は自己分析が大切!?～	深町 翔太	1	(株)フジミック埼玉
埼玉新聞社賞	我家を彩る花と花言葉	大出 教雄	1	会社員
日刊工業新聞社賞	地球を守ろう エコライフ!	松田 弘樹	1	県立浦和工業高等学校
サンケイリビング新聞社賞	ひばりの挑戦 ～富士吉田のためにできること～	小佐野伊吹他	3	山梨県立ひばりが丘高等学校
大宮アルディージャ賞	はじめよう! 少林寺拳法	藤田 ひとみ	1	AGS(株)
浦和レッドダイヤモンド賞	日本の河川	会田 樹希	1	松伏第二中学校

③埼玉県立工業学校プログラムコンテスト大会

「埼玉県立工業高校プログラミングコンテスト」は 23 回を数え、工業高校等に学ぶ生徒に創造力を発揮した新鮮な発想でのプログラミングの作成を通じて、次代を担うスペシャリストとしての資質の向上を目的に 11 月に開催されている。その上位入賞者は全国大会に出場する。

当協会は趣旨に賛同し審査委員派遣・協賛金など後援団体として支援している。

④「セミナー」「ビジネス交流会」の開催

- ・タイムリーなテーマを選定し、新ビジネス展開・会員相互のビジネス情報の交流を推進する。

- ・商工会議所などの経済団体と連携し、県内企業の IT 利活用促進を図る

＜経営者セミナー＞

NPO 法人埼玉 IT コーディネータと共催

開催日：平成 25 年 2 月 8 日 場所：さいたま市浦和コミュニティセンター

参加者：35 名

このセミナーは毎年度末に埼情協と NPO 法人埼玉 IT コーディネータが共催して開催するもので、本年度で通算 5 回目になります。毎年、総務省・経済産業省をお招きし新年度の情報通信関連施策を説明していただいています。

今回は会員企業・IT コーディネータ 45 名の参加を得て、両省の課長からは重点施策である「経済再生」とともに、それぞれ「ICT を活用した成長戦略」（総務省）、「IT と融合した新たな産業創出」（経産省）、と日本再生のための情報・通信の役割を推し進める施策の説明をしていただきました。

又 総務省吉森課長からは「戦略的情報通信研究開発推進事業」、特に「地域 ICT 振興型研究開発」をテーマにしたプログラムに、「来年度に埼情協として是非応募を」との提案をされました。

経産省北原課長からは埼情協も参加した 24 年度の広域関東地域クラウド推進事業の取り組みについての報告と、IT を活用した付加価値の向上・IT 社会における安全性、信頼性を確保するための基盤整備について、経産省の 25 年度政策の説明と、引き続き埼情協には地域 IT 利活用促進施策への協力を、とのお願がありました。

三人目の講師：（一社）情報サービス産業協会の手許部長からは「情報サービス産業の現状・課題について」をテーマに講演していただきました。

＜ビジネス交流会＞

イ 開催日：平成 24 年 7 月 11 日 場所：ソニックシティ 参加者：37 名

セミナー：「My 帳票基盤サービスについて」 ミツイワ株式会社

「人事給与勤怠ソリューションについて」 AGS 株式会社

講演：「IaaS クラウドシステムについて」

講師：ニフティ(株) クラウド事業部 川嶋 穰 氏

ロ 開催日：平成 24 年 9 月 21～22 日 場所：越生「ニューサンピアさいたまおごせ」
参加者：14 名

9 月 21 日にビジネス部会主催の一泊研修会が開催されました。過去定例的に一泊研修会は行われていたとのことですが、久しぶりの開催となった。

越生の山の中にある「ニューサンピア埼玉おごせ」に 14 名の部会員が集い定刻 14 時に山崎部会長のあいさつにて開会。第一セッションはセールスフォース・ドットコム岩永龍法氏より同社のサービス事例を中心にクラウド時代における一つのビジネスモデルをご紹介いただきました。契約の形態は複数あるようす

が、同社の提供する環境を活用し、会員企業においてカスタマイズしたサービスを販売するモデルは充分検討に値すると感じた。

郵政グループ 30 社、100,000 人での活用から小規模のユーザまで 5,000 社を超える利用事例はたいへん参考になるものでした。国内中堅・中小企業の事例は①北区敦賀様（モバイルを活用した営業活動の見える化と共有で売り上げ、利益向上を実現）②ファイナンシャル・インスティテュート様（顧客対応をプロセス化し、機会損失を大幅に削減）③株漆器会社陣屋様（ソーシャルメディアと連携したきめ細やかなサービス提供による顧客満足度の向上）④日本オプロ株式会社様（自社製品をグローバルに展開することで新たな販路を拡大等、具体的な各社の取り組みが面白かった。休憩をはさみ、公認会計士秦美佐子氏による「本当にいい会社が目でわかる経営指標の読み方」ということで、上場企業が発表している有価証券報告書（略して「有報」というそうです。）を読み解く方法について勉強。講義の中では、「スターバックス」「ドトール」「サンマルク」の有報をもとに①株を買うならどの会社？②就職するならどの会社？③営業するならどの会社？というテーマで演習を行いました。そのほか有報の【従業員の状況】や【設備の新設、除去等の計画】などの様々な情報をもとに企業の状況についての勉強になりました。17 時過ぎまでみっちり勉強し第一部は終了。第二部は施設内の宴会場にて懇親会を実施しました。講師の方々にも参加いただき、いろいろな話で皆さん盛り上がりました。

翌日はビジネス部会のコンペが「アドニス小川カントリークラブ」にて開催され、ウィンテックの角田様がベスグロで優勝されました。次回幹事は角田様とエイ・ケイ・システムの浅井様となりました。

⑤地域連携事業（JISA後援事業）

23 年 10 月（一社）情報サービス産業協会の後援事業である地域連携事業に関東において当協会が選ばれ、北海道・宮城・関西・福岡・熊本の情報サービス産業団体と情報交換・連携し本事業を推進することになり支援機関との連携体制のキックオフが実現した。平成 24 年 2 月 16 日第一回埼玉 IT 利活用支援ネットワーク会議キックオフミーティング開催、主旨に賛同した 12 機関が参加し活発な意見交換が行われた。

参加団体は以下のとおりである。

総務省 関東総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課、
経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 情報政策課、
埼玉県 産業労働部 産業支援課、商業・サービス産業支援課、
埼玉県 創業・ベンチャー支援センター、財団法人埼玉県産業振興公社、
埼玉県中小企業団体中央会、 社団法人埼玉県商工会議所連合会、
埼玉県商工会連合会、さいたま市 経済局経済部経済政策課、
一般社団法人情報サービス産業協会

⑥「新産業支援機関」に参画

埼玉県・さいたま市の創業・ベンチャー支援事業の支援機関として、IT 業界に起業・進出したい人に対する相談・技術支援などを行う。

⑦「IT なんでも相談室」の設置

政府・県の施策に協力して、中小事業者の IT 投資・情報化等についての相談窓口を事務局に設置。 専用電話 048-660-1788

(3) 調査研究事業

①地方公共団体情報化施策動向に関するアンケート調査

県下の地方公共団体を対象に情報化動向を把握し、地域情報化戦略立案や情報化計画策定等情報提供と地域情報産業の技術力向上をサービス目的として実施。

- ・平成 25 年 2 月 対象 県内 63 市町村
- ・調査報告：平成 25 年 4 月発行「SAI-PRESS76号」に掲載

②県内企業アンケート調査

県内企業を対象に情報化動向及び、情報化の及ぼす労働状況を把握し、これらの情報を提供することにより、地域情報サービス産業の技術力向上を目的として実施。

- ・「彩の国ビジネスアリーナ2012」開催時1月に出席企業を調査
- ・調査報告平成25年4月発行「SAI-PRESS76号」に掲載

③プロジェクト管理技術・開発方法・先進ITの研究

- ・部会月1回 年12回開催
- ・研修合宿：平成24年11月3～4日 秩父・今宵荘にて参加者9名
- ・活動報告書作成 SAI-PRESS73・74・75号に掲載

(4) 啓蒙・普及事業

①広報誌「SAI-PRESS」の定期発行：年4回

協会の動向を外部にアピールし、協会の知名度をより一層向上させる為、県内唯一の情報サービス産業公益法人として積極的な情報発信を行う。

- ・SAI-PRESS72号(4月)73号(7月)74号(10月)75号(1月)発行

②SAI-PRESS速報」の発信

協会に送られた「情報・ニュース・案内」などを会員にメールにて適宜送達。

③協会ホームページの運営について

適宜情報内容の更新を行う。

(5) 産・学・官交流事業

①情報サービス産業振興のために、埼玉県をはじめ経済産業省・総務省等及びJISA・ANIA等関係諸団体・埼玉大学・オープンイノベーションセンターをはじめとする県内大学、産学官交流協議会等への参画、国際交流等を行う。

- ・「広域関東圏産業クラスター推進ネットワーク」に参画
- ・世界情報技術会議(WCIT2012)カナダ・モントリオール大会
開催日：平成24年10月22～24日 参加者14名
活動報告平成25年1月発行「SAI-PRESS75号」に掲載
- ・第34回全情連(ANIA)宮崎大会
開催日：平成24年11月7日～11日 参加者：16名
活動報告平成25年1月発行「SAI-PRESS75号」に掲載
- ・アジア・オセアニアIT産業会議(ASOCIO)-ICT Summit2012
開催日：平成24年11月15日～17日
開催場所：スリランカ・コロンボ大会 参加者：10名
活動報告平成25年1月発行「SAI-PRESS75号」に掲載
- ・NPO韓国テクノマート 金会長他来協
平成25年1月17日 賀詞交歓会に参加
- ・東京・神奈川・千葉及び山梨など近隣諸県の情報サービス産業協会との連携を強化し、幹部会・交流会・研修などの行事を推進

<首都圏情報サービス産業団体協議会・幹部会>開催（今回幹事：東京）

3月7日埼玉・東京・神奈川・千葉・山梨の1都4県の情報サービス産業団体で構成する首都圏情報サービス産業団体協議会幹部会が東京霞ヶ関の東海大学校友会館で開催されました。当協会から小川会長はじめ4名が出席し、情報交換・交流を行った。

出席者

（埼玉）小川会長、鈴木副会長、増古副会長、岩崎常務理事、
（東京）河合会長、根本副会長、工藤常務理事、奥田理事、與良理事、高橋事務局長
（神奈川）池田会長、富澤副会長、野木副会長、森副会長、内藤専務理事、前田事務局長
（千葉）野澤会長、武次副会長、水上常務理事、岩波事務局長、田村参与、鈴木氏
（山梨）飯室会長、河澄専務理事、井上理事 以上 25 名

1. 各団体報告

- ・（一社）神奈川県情報サービス産業協会(KIA)報告
会員は微減に止まった。社員や家族を対象にした参加型イベントが盛況なことも原因と考える
- ・社団法人埼玉県情報サービス産業協会(SISIA)報告
埼玉県に対し公益社団法人へ申請を行い、認可される見込み。4/1より公益法人に移行
- ・社団法人千葉県情報サービス産業協会(CHISA)報告
会員はかなり減少。実践型人材養成システム等教育活動を強化。事務局長交代報告など
- ・社団法人山梨県情報通信業協会(YSA)報告
一般社団法人へ移行、4/1登記予定。Androidソフトコンテスト、企業ガイダンス等を実施
- ・一般社団法人日本ソフトウェア産業協会(NSA)報告
会員減少に苦慮している。
一方、その中で昨年は44のイベントに1,285社2,314名が参加した。

2. ビジネス交流会について

- ・ CHISAよりNSAと共催しているビジネス交流会に関し、首都圏5協会へ共同出展が提案された。各団体3~4社が出展し、参加も全協会会員に呼びかける内容。詳細は今後案内される予定
- ・ 今回は共同出展依頼だが、将来的には5団体での共同開催についても検討
- ・ 基本的には異論がなく提案は承認された

3. 将来に向けた取り組みについて

- ・ 首都圏会員共通の公開型のイベントを増やすことも必要
- ・ 若者と協会活動にギャップがある、若者が興味をもつような活動が重要
- ・ フットサルなど親睦イベントを県対抗で実施するのはどうか
- ・ 会の外に向けたプレゼンスも向上させるべき
- ・ パネルディスカッションなど経営者層のコミュニケーションを行う場を創りたい
- ・ 中小企業振興公社、中小企業団体中央会、商工会議所などを連携する「地域ICT利活用・ネットワーク」の活用に着手

- ・「埼玉県GIS普及推進研究会」への参画
- ・(株)さいたまソフトウェアセンターとの連携終了
平成3年にIT人材育成・IT産業振興を目的に設立された第3セクターである(株)さいたまソフトウェアセンタービルが平成24年3月31日(一財)さいたま市都市整備公社に売却された。
- ・国土地理院埼玉地域地理空間情報産学官連携協議会委員会：平成24年2月29日
- ②新年賀詞交歓会：平成25年1月17日 パレスホテル大宮にて開催
諸官庁・諸団体関係者を招くと共に、協会会員の交流、拡大を図る 参加者137名
同日、第17回「彩の国さいたまホームページコンテスト2012」の表彰式を行う。

(6) 福利厚生事業

① 第19回ボウリング大会

恒例のSISIA ボウリング大会が2月15日(金)に川口スプリングレーンズにおいて、盛大に開催されました。ボウリング大会も19年連続の開催で22チーム、88名の参加のもと熱戦が繰り広げられ参加会員企業皆様の親睦と交流が図られました。

「団体戦」(会社名/参加者名) 敬称略

優勝 AGS(株) : 三浦 隆・笠原 由美子・中須 祐一・平田 尚
準優勝 ぶぎんシステムサービス(株)

: 堤 秀夫・大澤 正幸・小林 啓之・辻 勝弘

3位 蓼科情報(株) : 新井 裕輝・星 信幸・重田 麻衣・三上 舞

「個人戦」(選手名/所属) 敬称略

優勝 堤 秀夫 : ぶぎんシステムサービス(株)

準優勝 笠原 由美子 : AGS(株)

3位 古澤 康之 : ぶぎんシステムサービス(株)

② 第17回チャリティゴルフコンペ

平成24年9月25日 高麗川カントリー倶楽部にて開催 参加者31名

猛暑が去った初秋の24年9月25日、恒例の第17回チャリティゴルフコンペが高麗川カントリークラブで開催されました。

当日は寄付金のための罰打ルールが設けられ、罰打ルールが適用されない皆さんを含め多くの善意が寄せられました。チャリティで集まりました寄付金(74,000円)は社会貢献団体に寄贈致します。

優勝 原田 薫 氏 三田電子ケイサン(株) ネット71.6

準優勝 関 栄一 氏 (株)ハツコーエレクトロニクス ネット72.2

3位 中澤 巧 氏 (株)埼玉電算センター ネット73.0

ベストイ賞 岩崎 正 氏 (公益社)埼玉県情報サービス産業協会 グロス 81

(7) 人材確保・共同求人事業

① <平成24年度人材確保推進事業(埼玉労働局助成事業)>

IT業界は優れた技術者の確保と人材育成は経営基盤の根幹を成すものでありますが、優秀な人材確保は現状の雇用情勢でもなかなか難しい環境にあります。ゆえに、埼玉県の認定を受け雇用能力開発機構の助成事業として、少子高齢化社会を展望し、より魅力ある業界と成るべく所定労働時間の改善・年休取得の向上・ライフワークバランス等の諸施策を積極的に推進し、より魅力ある職場作りを目指して、本件事業を3ヶ年計画の第3年度として取り組みました。

本年度は最終年度として

イ、雇用管理改善に資するため、ポスターを作成し会員事業所に配布することにより、意識啓発を図り、当該取組の促進を図った。

内 容：休暇取得に関するポスター作成

配布時期：6・10月作成配布 作成部数：各500部

ロ、学校と企業の就職関係交流会

会員事業主と大学進路担当者との意見交換会を厚生労働省埼玉労働局の安藤よしこ局長を来賓としてお迎えし開催された。

実施日：平成24年10月2日

参加者：49名（会員企業20社29名・学校17校20名）

会 場：大宮サンパレス

ハ、会員事業所の事業主、人事担当者を対象にセミナーを開催し会員事業所の採用活動の改善に資した。

1、 実施日：平成24年6月12日 会場：パレスホテル大宮

テーマ：「日本の明日をかたる」

講 師：江利川 毅（前人事院総裁）

2、 実施日：平成25年2月26日 会場：SSC

テーマ「職場のメンタルヘルス対策」

講 師：阿部 真弓（社労士）

二、当協会のイメージアップ・知名度UPのため開催

イベント名：「彩の国ビジネスアリーナ2012」

実 施 日：平成25年1月30日～31日 2日間

ホ、会報「SAI-PRESS」の発行

発行回数：全4回（4月・7月・10月・1月）

掲載内容：各種事業の取組状況及び推進事業報告・各種調査結果の概要等
作成部数：1,200部

へ、「職場のメンタルヘルス対策」解説書の発行・配布

職場のメンタルヘルスに関する問題点についての解説書を作成し、会員事業所の労務管理の改善の一助とする

その他 研修事業など人材育成確保推進の諸事業を推進

②共同求人事業

・学校・企業求人関係懇談会：平成24年10月2日開催

参加者：学校20名 会員29名 計49名

・合同就職説明会：平成25年3月6日 大宮ソニックシティにて開催

参加者600名

・研修合宿：平成24年11月27～28日 熱海にて 参加者8名

・会員企業求人案内：平成24年4月「SAI-PRESS72号」に掲載

③インターシップの受け入れ

・大学、専門学校、県内高等学校から職場実習を受け入れる。

(8) 会員増強運動

今年度は東日本大震災・IT不況などの影響もあり会員増強は不調であった。

目標：10社 実績：1社

3. おわりに

厳しい経済状況下、会員皆様のご協力・ご支援により「公益社団法人」として初年度の事業計画を着実に推進し出来ましたことを関係各位に厚く御礼申し上げます。これにて平成24年度事業報告を終わります。

以上